

## 望郷 40 周年記念(平成 30 年) ふるさと大滝の集い 報告 その-3

### ——平成 30 年大滝の春・大滝の詩、山神社・記念碑の経緯——

#### 【附録 1】 平成 30 年大滝の春 写真集

例年 5 月初めの大滝会総会では山桜の最盛期ですけれども、今回は総会の時期がずれるので、<sup>あらかじめ</sup>予め 4 月 26 日春の大滝の写真撮りに行ってきました。今年(平成 30 年)の福島市の桜開花は 3 月 29 日(木)で、平年より 11 日も早く気象台の観測開始以来もっとも早い開花となっています。それで 5 月に入ってからでは間に合わないかと思いかけてみましたけれども、やはり例年とは違う光景となっていました。

例年の大滝会総会時には、大滝集落入り口旧葭沢橋の山桜は盛りなのですが今年はやはり過ぎていました。また大滝分校跡(山神社)の山桜も最盛期は若干過ぎている感じで、もう少し早めに出かけていればと残念な思いでした。胡桃平地区では、渡辺清治さん旧宅の八重桜は少し早く、渡辺正義さん旧宅(旧中屋旅館)前のスモモ(李)の花も最盛期は過ぎていたようでした。

なお、例年の開花状況については、下記サイトをご覧ください(当大滝会 HP)。

「平成 29 年大滝会総会・観桜会報告」(平成 29 年 5 月 4 日(木)実施)

<http://ootaki.xsrv.jp/H29soukai.html>

現国道 13 号東栗子トンネル福島側坑口、旧国道 13 号(旧 5 号国道)新沢橋、E13 東北中央自動車道の新しい栗子トンネル福島側坑口にも同日行ってみたので写真を添付しました。栗子トンネル福島側坑口の山桜も例年 5 月の連休が盛りなのですが今年はちょっと間に合わなかったみたいです。

(写真 18①～⑤、写真 19①～④、写真 20①～③、写真 21①②)



写真-18① 葭沢橋 盛りを過ぎた山桜。



写真-18② 大滝記念碑入口(旧分校入り口)



写真-18③ 大滝記念碑と山桜

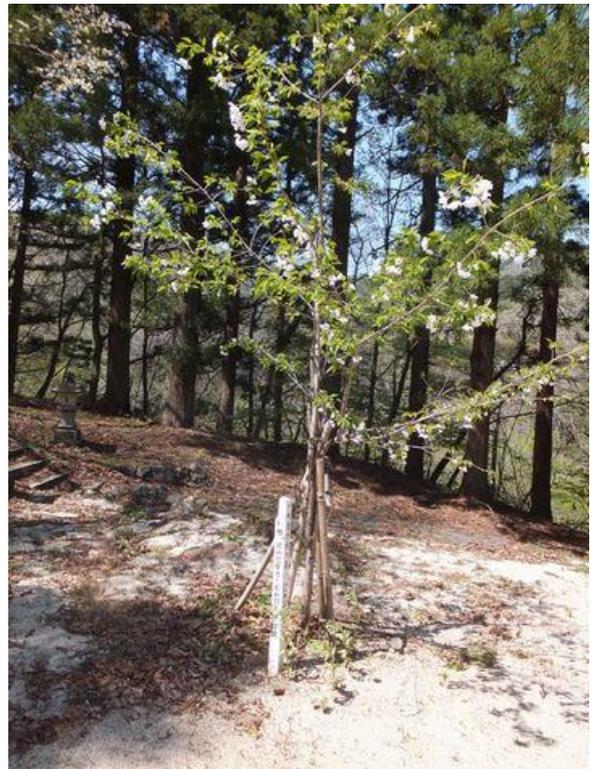


写真-18④ 分校の集い(H22.7.17)記念植樹  
「松前紅笠桜」も咲きました。



写真-18⑤ 大滝山神社と山桜



写真-19① 旧万世大路、渡辺清治さん旧宅から  
米沢側を望む。



写真-19② 旧万世大路、高野家旧宅跡地前(左側  
更地)から福島側を望む。スモモの花咲  
く渡辺家旧宅(旧中屋旅館)



写真-19③ 明治天皇御小休所(M14.10.3)。  
渡辺正義さん旧宅(旧中屋旅館)。  
左側石碑「鳳駕駐蹕之蹟(M41.9.12)  
右側、昭和10年11月史蹟指定石碑。

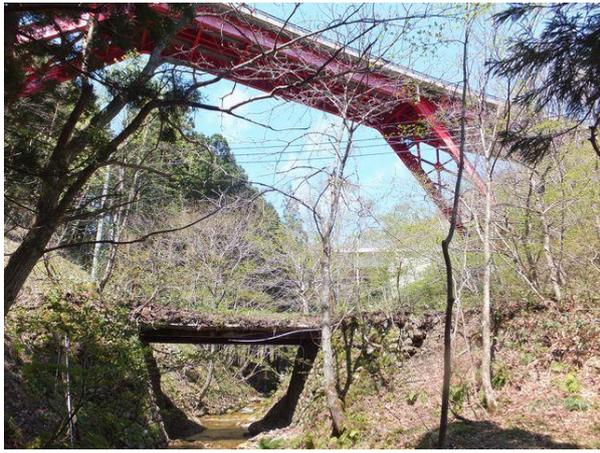


写真-19④ 3代にわたる西川橋。  
下から旧国道13号2代目西川橋(L=8.5m、  
W=4.5m、大正12年完)、  
写真中央薄く見えるのが4代目E13新西川橋  
(L=77m、W=10.5m、H20.10完)、  
3代目現国道13号西川橋  
(L=98.8m、W=8.0m、S39.9完)



写真-20① 2代目新沢橋(L=42m、W=6m  
S11.12完)。米沢側を望む。



写真-20② 新沢橋と山桜、福島側を望む。



写真-20③ 雪解け流水の滑沢、  
左滝橋遺構(米沢側橋台)



写真-21① 左側、国道13号東栗子トンネル旧換気所  
(現在廃止)。右側、E13新栗子トンネル換気塔  
右上残雪の山は葡萄沢山。

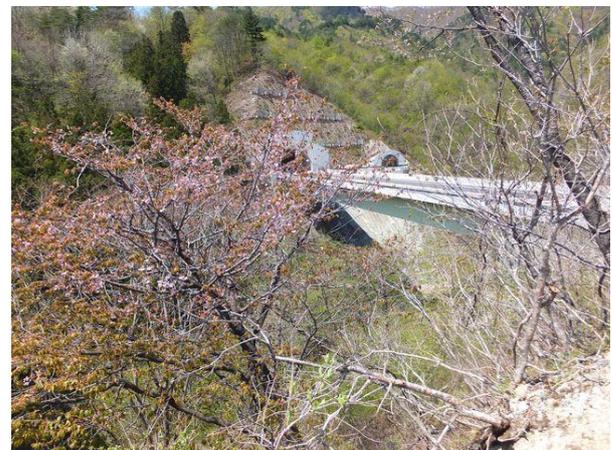


写真-21② 平成29年(2017年)11月4日開通、  
E13東北中央自動車道新栗子トンネル  
(左側L=8,972m)と山桜。  
右側は避難用トンネル(L=8,989m)。

## 【附録 2】 大滝四季の歌 全歌詞

### 「大滝四季の歌」

作詞 小松道栄(※) 曲 (『鉄道唱歌』のメロディーによる)

#### 春

1. 雪は残れど春はきぬ、花はまだ咲かねど春はきぬ  
雪の消え間にうち集い、いざや遊ばん草履はき
2. 日はよく照りて雪解けの、流れささやく小川辺り  
今朝鳴き初めしうぐいすの、初音長閑けき幸の里
3. 朝日に匂う山桜、山神様にらんまんと  
咲けば野の鳥みなうたう、平和を舞うや村の人
4. 若葉の風にカッコ鳥、ほがらに鳴きて山々の  
あなたこなたに青煙り、炭焼く里の長閑けさよ

#### 夏

5. 夏の初めの心をば、姿にみせて藤の花  
うす紫に咲き匂う、小川岸辺の涼しさよ
6. 月東天に昇る頃、いら沢橋にたたづみて  
聞けや涼けしかじかの音、何にたとえん事もなし
7. 十五、十六、十七と、山野はこれぞわが里の  
老いも若きも皆出でて、月下に狂う盆おどり

#### 秋

8. お祭り来ればみ社の、氏子一同皆出でて  
神の心を敬いし、どんどんひやらの大祭り
9. 天にもとどく喜びの、歌のあるじは小学生  
手籠の中に溢れしは、ぶどう、あけびのえものなり
10. ああ吟鈴の虫の声、いま絶え絶とかすれたり  
哀れさすがは秋なれど、燈火読書の好季節

#### 冬

11. 紅葉散らぬに雪降りて 西川山は初化粧  
驚き顔に人は皆、冬来れりと告げ合いぬ
12. 屋根の上にも雪五尺、他人はまことと思わざる  
わが大滝の大雪は、今を盛りと荒れ狂う
13. 福はお内に鬼は外、福はお内に鬼は外  
たとえ余寒は残れども、春遠からずの山の里

※小松道栄 元大滝分教場(分校)小学校教員(大正15年4月～昭和6年(1931年)3月)。

歌詞は、記念碑建立十周年記念誌『ふるさと大滝を偲ぶつどい』昭和元年10月14日を底本とし、一部『わが大滝の記録』昭和52年1月(34頁)を参考とした(6番歌詞中いら沢橋は『わが大滝の記録』では葭沢橋となっている)。ルビは筆者による。

(PDF版『わが大滝の記録』本大滝会 HP <http://ootaki.xsrv.jp/wagaootaki.pdf> 参照)

### 【附録 3】 大滝の文芸から

大滝集落の文化水準は高く俳句・短歌・詩（漢詩）・詩吟等をよくし楽しんでおられたようで、文芸誌『滝の声』（ペン書きのちガリ版刷り）まで発行されていたようです。

ここでは、『わが大滝の記録』（昭和 52 年 1 月）から当時の大滝の風情をよく伝えていると思われる「駄賃付馬子唄」（奥野ミサオ作）と、『記念碑建立十周年記念ふるさと大滝を偲ぶつどい』記念誌（平成元年 10 月）から廃郷 10 年望郷の念を切々と訴えている漢詩「郷碑建立賦十年」（斎藤源右エ門作）の 2 作品を紹介する（一部俳句含む）。

なお、漢詩については読み下し文のみの紹介とする。漢詩原文については下記サイトを参照されたい。

#### ・記念碑建立十周年記念 ふるさと大滝を偲ぶつどい（当大滝会HP）

<http://ootaki.xsrv.jp/page098.html> （記念碑建立十周年（離郷十周年）記念行事）

（当日配付資料『記念碑建立十周年記念 ふるさと大滝を偲ぶつどい』5 頁）

#### 1. 「駄賃付馬子唄」（奥野ミサオ作）

### 「 駄 賃 付 馬 子 唄 」

[下記の※印注釈は大滝会ホームページ管理人(紺野文英氏)による]

馬子唄は旧万世大路を福島から大滝に向かう道順で詠まれている。

#### 1. 万世大路 石たたみ

馬よ気をつけよ、足ともに

#### 2. 手綱両手に すげ笠かぶり

手っこきやはんに、わらじ履き

※すげ笠…菅(スゲ)の茎や葉で編んだ円錐形の笠

※手っこきやはん…手甲と脚絆

#### 3. 成出越えれば上り坂

急げや急げ、日が暮れる

※成出…現在の北沢又を過ぎ、笹谷地区あたりの地名

#### 4. 日もとし堰場で、鞭うちかけりや

馬もいなく、車もきしむ

※堰場…福島からの万世大路と飯坂からの旧中野街道の中野

合流地点付近（現在の国道 13 号は往時の合流点は通らない）

#### 5. 暗いトンネル 松明たより

山神橋のあのたもと

※暗いトンネル…旧高平隧道と思われる

※山神橋…杉の平の終点(大滝側)に在る旧橋（昔は木造の土橋）

#### 6. つむぎキセルで一息つけば

月もほほ笑み 流れも踊る

※つむぎキセル…きざみタバコを紡ぎ、煙管に詰めて吸う様

7. 長い出来沼、大桁がんげ  
でこぼこ道の登り坂

※出来沼…現在の中野第1,2トンネルの背後にあたる旧万世大路の地名。ここに沼が在った記憶はないが、山神橋を過ぎ大桁・出来沼から中野銅山(現中野第2トンネル大滝側出口付近)入口迄は急峻な長い上り坂の悪路だった。

※大桁…明治の頃は桁洞門(29m程)が有り、その後切通しとなった。

※がんげ…崖(がけ)の大滝弁…この辺りは断崖絶壁でいつも落石していた。

8. 万太郎越えれば、福寿草山の  
ひとり湧く水、手酌で飲ませ

※万太郎…現在の中野第二トンネル大滝側出口から百m程先

右側に佐藤家が一軒だけポツンと在り往来の目印

になっていた。…ずっと佐藤万太郎氏宅と思っていた。

注 [『万世大路事業誌』(明治14年福島県土木課編)の「雑記之部」の中に、万太郎沢というものが、当該万太郎箇所付近と思われる順序で他の沢と共に列記されている。このことから万太郎というのは、人名の佐藤万太郎氏を指すと言うよりも元々の地名である可能性もある。]

※福寿草山…現在の国道13号から大滝に下りる右手の山

(山に自生していた福寿草は国道13号の工事で消滅)

●万太郎や福寿草山のルビは大滝では単語の末尾の「う」や「わ」を発音しない言葉の習慣が有り、あえてルビもそのように表記した。(「手うこ」や「まんじゅ屋」も末尾省略形、その他いら沢(いらざ)、葭沢(よしざ)、西川(にしか)、小川滝(おがだき)、烏川(からすが)、新沢(しんざ)、菱川(ひしが)…等、大滝独特の言い方をしていた。

※ひとり湧く水…旧万世大路を大滝に入るとすぐ右側に福寿草山の山肌から岩清水が湧き出していた。

9. 馬のたてがみ、撫でながら  
曲がり曲がれば、まんじゅ屋見える

※まんじゅ屋…吉田富三郎氏旧宅

(昔、吉田家では饅頭を作り、川向いの大滝銅山の労働者相手に売っていた)

10. 葭沢橋をば、馬方節で  
曲がり角から、大滝見える

11. 「ちゃん今かい」  
これがわが家だ大滝だ

※ちゃん…お父さん(父ちゃんの省略語)

12. 明日は栗子の大平  
慈悲の恵をいただいて  
三代続いた馬方節よ。

(荷馬車輓き三代続いた大滝・蒲倉家のご子孫奥野(旧姓蒲倉)ミサオさん(蒲倉高松様ご息女)による。『わが大滝の記録』5頁)

(参考写真-9①~⑬)



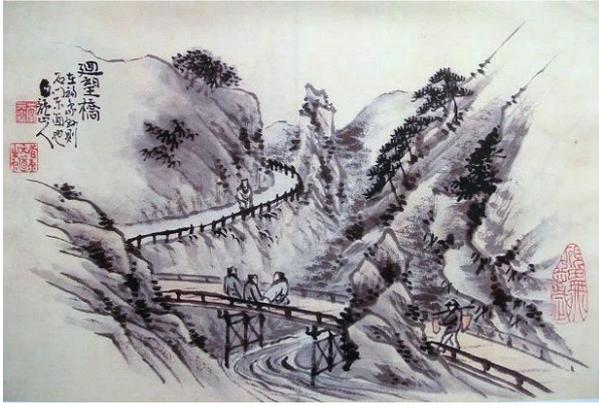
参考写真-9①

栗子新道画圖部分  
(明治14年9月、  
浜崎木鱗画)一部  
加筆。  
高平隧道から初代山  
神橋(廻望橋)へ。  
ここから出来沼を  
経て大桁までは長い  
上り坂となる。福島市  
史料展示室所蔵。

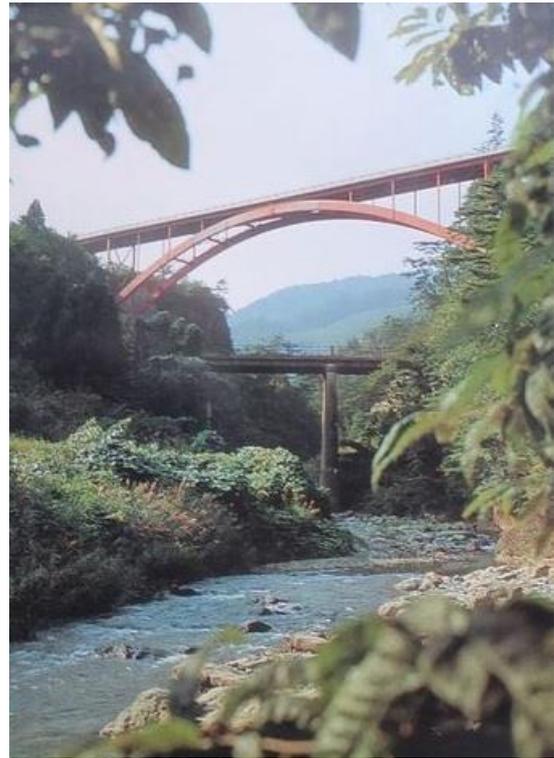


参考写真-9②

栗子新道画圖部分  
(明治14年9月、  
浜崎木鱗画)一部  
加筆。  
大滝橋(すぐ先右側  
蒲倉家)、胡桃平、  
二ツ小屋隧道を経て  
馬子唄終点大平に  
至る。  
福島市史料展示室  
所蔵。



参考写真-9③ 廻望橋(初代山神橋、明治14年完)、  
風光明媚。明治・大正の荷馬車軌が通った  
(菅原白龍画・栗子隧道十二景「栗嶺奇観」①)  
福島県立図書館所蔵



参考写真-9④ 写真中央奥、旧国道三代目山神橋(昭和3年完)  
昭和の荷馬車軌が通った。  
上、現国道13号4代目山神橋(昭和38年完)。  
「栗子国道(栗子ハイウェイ)開通記念絵葉書」。



参考写真-9⑤ E13東北中央自動車道中野大橋(第5代目  
山神橋)から小川下流現国道13号の4代目  
山神橋(赤いアーチ橋)を望む。H280406



参考写真-9⑥ 長い上り坂、山神橋～大桁の中間点付近  
(出来沼)。  
旧万世大路(旧国道5号、13号)、  
米沢(大桁)方面を望む。H240506



参考写真-9⑦ 大桁隧道跡の掘割。「大桁切通信夫郡中野村字大桁元隧道のあと、東方より望む。(昭和7年)8月11日午後3時」堀江繁太郎画。「堀江画帖折本(御駐駅之蹟 etc)」より。福島県立図書館所蔵



参考写真-9⑧ 万世大路開通後(M14.10.3)間もなく崩落した大桁隧道跡の掘割(切通)。東方(福島側)から西方(米沢側)を望む。H160417 (dark-Rx さん提供)



参考写真-9⑨ 「大桁がんげ(急崖)」、旧国道は約100mに渡って崩落。写真奥電柱箇所が旧国道。その約100m先右側が中野鉱山入口、この辺りの頂点付近で、あと大鍋橋まで下り坂になる。隧道跡から約100m付近、米沢側を望む。H160417 (dark-Rx さん提供)



参考写真-9⑩ 写真中央、福寿草山跡。左側国道13号から大滝集落への進入路(大滝橋新設国道の付替工事により旧万世大路復元)。写真中央は残存旧栗子ハイウェイで、手前は撤去盤下げされ旧道が復元。ハイウェイ工事で福寿草山消滅。H250503



参考写真-9⑪ 冬の大滝集落・大滝地区(旧国道13号・旧万世大路)米沢側を望む。手前曲がり角を経て旧大滝橋に出ると蒲倉家が見える(中央、バスの先の右側)。栗子開通前(S41.5.29)昭和40年前後(大滝会・榎木新吉さん提供)



参考写真-9⑫ 馬子唄終点、旧国道5号大平(昭和9年の状況)、米沢方面を望む。集落は昭和7年廃村、その廃屋4軒を内務省が借用し工事用事務所・合宿所として補修して使用。栗子隧道の拡幅工事は昭和9年5月着工。万世大路研究会提供



参考写真-9⑬ 小松道栄先生ご夫妻を囲んで。  
第2回大滝会総会(飯坂温泉(湯野)福島県  
婦人会館)  
左端下から二人目が奥野ミサオさん。  
S520219 (榎木新吉さん提供)

2. 漢詩「郷碑建立十年に賦す」(斎藤源右エ門作)

「郷碑建立十年に賦す」(読み下し文)  
(「郷碑建立賦十年」)

せきしんぐげんごうひ た  
赤心具現郷碑を建て

すい い こういんはや  
推移す十年光陰迅し

かきょう すいぼうつみひと な  
家郷の衰亡罪人に無く

じりゅうほんとう へきゆうつい  
時流奔騰して僻邑潰ゆ

はいきよぼうぼう つきてんしん  
廢墟茫茫として月天心にあり

きょゆうとうみん ゆき しんしん  
巨熊冬眠して雪は津深

しゅんちやう な らっかふんぶん  
春鳥啼けば落花粉粉

ばんりよくせい かへいきすいはし  
万緑夏盛碧水奔る

きんしゅう ごう しの ばんかんあふ  
錦秋に郷を偲べば万感溢れ

しょうらい しゅうふう きしゅう とも  
松籟の秋風に羈湫を伴なう

べつり ごうじん き なみだ そそ  
別離の郷人來たりて涙を灌ぎ

きょうきん ゆうこんたれ むか かた  
胸襟の幽恨誰に向かつて説らん

さいわ ほうゆうたきやう ね ゆたか  
倖い朋友他郷に根ざして饒なり

りやう や せいざん かい さん とも  
良夜清山(※)に会して餐を俱にす

かい きかんだんしんこう ぼう  
回歸飲談深更を忘す

きけい よ えい われまわ ほつ  
貴兄好く詠ぜよ我舞んと欲す

こざん ふんぼ それいほろ  
故山の墳墓祖靈泯びず

きゅうてん ほうはく じそん まも  
九天に磅薄して児孫を護らん

平成元年八月の作

【俳句】(斎藤源右エ門)

ふるさと くま すみか は  
故里は 熊の棲家と なり果てし

さとと くさ でい はば  
実家訪えば 草に出入りを 拒まれし(『わが大滝の記録』)

(※)： 記念碑建立十周年記念「ふるさと大滝を偲ぶつどい」(平成元年10月14日～15日)において祝宴会場となった飯坂温泉旅館清山のこと。

なお、当漢詩には難しい字句が使用されているけれども、筆者の及ばざるところにて注釈は差し控えたい。しかし、その行間からは大滝の現況を愁い、故郷を想う望郷の念がひしひしと伝わってくるものがある。

本稿では、読み下し文のみの紹介としているので漢詩原文については下記サイトを参照されたい。

・ 記念碑建立十周年記念 ふるさと大滝を偲ぶつどい (当大滝会HP)

<http://ootaki.xsrv.jp/page098.html> (記念碑建立十周年(離郷十周年)記念行事)

(当日配付資料『記念碑建立十周年記念 ふるさと大滝を偲ぶつどい』5頁)

(葭沢地区にご在住していた斎藤源右エ門さん(斎藤一平さまご子息)の作品。

『記念碑建立十周年記念ふるさと大滝を偲ぶつどい』記念誌(平成元年10月、「大会によせて」より 4、5頁)  
(参考写真-10①～④)



参考写真-10① 「…郷碑を建て推移す十年…」大滝記念碑建立10周年。敷地舗装が5月に完成。H011014(渡辺正義さん提供・大滝会HPより)



参考写真-10② 「廢墟<sup>ぼつぼつ</sup>茫茫として…」胡桃平地区。H19秋(伊藤弘治さん提供、大滝会HPより)



参考写真-10③ 「巨熊冬眠して…」熊の寝床、本当? 渡辺正義旧宅前、H19秋(伊藤弘治さん提供、大滝会HPより)



参考写真-10④ 「…雪は津深<sup>しんしん</sup>」葭沢橋 H300216



参考写真-10⑤ 「春鳥啼けば…」カケス「山のかけすも泣いていた」(別れの一本杉)万世大路旧西川橋付近。H290428



参考写真-10⑥ 「落花粉粉…」大滝山神社と山桜 H290504



参考写真-10⑦ 「万緑盛夏碧水奔る」幸蔵滝(高さ約5m) 国道13号大路橋付近小川。 H210628 (伊藤弘治さん提供・大滝会HPより)



参考写真-10⑧ 「錦秋に郷を偲べば…」紅葉盛りの旧万世大路、オサ沢の先、福島側を望む。(約100m先森元巡査殉職碑跡) H261102



参考写真-10⑨ 「松籟の秋風に…」赤岩道入口付近からこぶがはら様方面を望む。 H241224



参考写真-10⑩(再掲) 「良夜清山に会して餐を俱にす」 望郷 10 周年記念ふるさと大滝を偲ぶつどい  
H011014 (半田サキさん提供、大滝会 HP より)



参考写真-10⑪ 「故山の墳墓祖霊混びず」  
工事用看板が林立する大滝共同墓地  
H241118



参考写真-10⑫ 「九天に磅薄して…」  
栗子連山を花見山から望む。  
中央の三角、栗子山 A(1202m)、  
その右栗子山 B(1216.6m最高点)、  
その手前西川山(947m)。  
A の左側小杭甲(1130m)、その左側栗子  
山 C(1111.4m)、その手前左側二ツ小屋山  
(947.3m)。 H260201

[その-4へ続く](#)

[その-1へ戻る](#)

[その-2へ戻る](#)